

2023年活動スローガン 「世界の子供達に 笑顔いっぱい 明るい未来を」

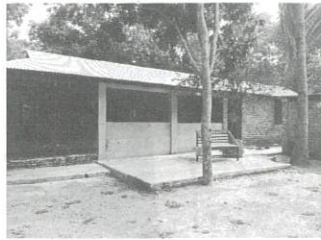
報 告 2023年7月～10月支援分

イベント情報

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・有志の方よりカバシア郡の学校にトイレ2基



学校校舎



●その他の寄付

・会員有志の方よりエンゼルホームのガス厨房機器、女子寮に洋式トイレ他

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)への寄付

・兵庫県保健医療課より子ども食堂に冷蔵庫をいただきました。

・尼崎の武庫川渡船様より食材(魚)の寄付

10/18
(水)

秋のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター(伊丹市)

時間：10:00～14:00



●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

編集後記

バングラデシュのダッカで昨年12月に電車が開通し、物珍しさもあって多くの人が駅のホームに並んでいます。先日、エンゼルホームの子ども達を連れてその電車に乗ったのですが、彼らにとってはそれほど驚きも感動も無かったようでした。1986年に私が初めて日本へ行き成田空港から電車に乗った時は、自動で扉が開閉するのに乗客が挟まれないことに驚いたものでした。今の子ども達はテレビやパソコンなどから多くの事を知っていて当時の私のように驚くことはないのでしょうか、その分感動することも少なくなるのは残念な気がします。(アジズル・ナリ)

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー・用物資によるご協力もよろしくお願いします。

会員数：一般会員 634名

DCEF会員 580名

(10月1日現在)

2023年 行事予定

10月現在

10月	18日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	24日(火)～30日(月)	ノクシカタ販売	高円寺ギャラリーR	東京都
11月	3日(金・祝)	ノクシカタ販売	さいたま市立中尾小学校	さいたま市
	5日(日)	チャリティバザー	門戸厄神東光寺	西宮市
	8日(水)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
	21日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
12月	2日(土)～10日(日)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	
	23日(土)	街頭募金	JR天王寺駅前	大阪市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ

ANGEL NEW

通巻205号
2023.10

バングラデシュ・スタディツアー (7/22～30)

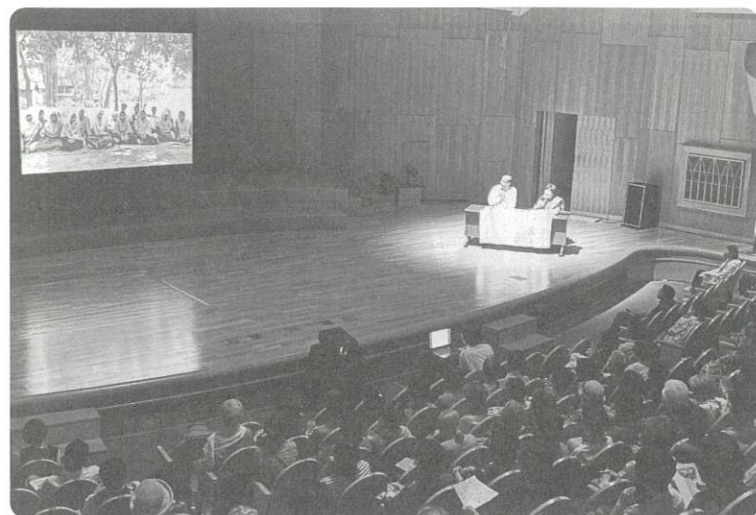
約9カ月ぶりにバングラデシュに行ってきました。今回同行した7名の内6名の方がバングラデシュは初めてであり、皆さんがどのように感じるのかとても楽しみでした。なるべく先入観を持たずにバングラデシュを感じてもらいたくて、現地の様子など事前にお話しすることは最小限にしておきました。

現地に到着後、空港を出るといつものように人、人、人。たくさんの人だかりに皆さん圧倒されていました。エンゼルホームまでの道のりは、道路事情も以前に比べずいぶんと改善されているのですが、それでもけたたましく鳴り響くクラクションや飛び出してくる人、車のすれすれを走るバスに思わず声を上げてしまいます。しかしエンゼルホームに到着するとそれまでの道中から一転して緑に囲まれ、きれいなフラワーレイを持ってお出迎えしてくれる子ども達。現地入りして数時間でバングラデシュのエネルギーと子ども達の笑顔、人の暖かさを存分に感じてもらうことができました。その後、滞在中はホームの子ども達との交流を中心にYURIKO エンゼルスクールで文化祭に参加したり、近くの市場や首都ダッカのショッピングモールで買い物、農村に行き奨学生のお宅や識字教室の見学、ホームの子ども達と遠足に行ったりと盛りだくさんのスケジュールを満喫しました。

目に映る物全てが今までに見たことが無く、地元の市場はすさまじい喧騒とにおい、毎食後に出て来る完熟したマンゴーやパイナップル、バナナなどの果物、そして「一緒に歩こう!」といつも手をつないでくれる子ども達。全身でバングラデシュを感じ、その魅力にどっぷりと浸かることができた7日間でした。子ども達の笑顔と現地の人の優しさ、そして活気あふれる街を存分に楽しむバングラデシュ、ぜひ皆さんも一緒に行ってみませんか。

事務局長 東村 良平

チャリティコンサート2023



東村眞理子代表理事と現地責任者アジズル・バリによる活動紹介

9月2日、伊丹アイフォニックホールに於いて「チャリティコンサート2023」を開催しました。第一部では東村眞理子代表理事と現地責任者アジズル・バリが、38年に亘るバングラデシュでの活動のエピソードなどをスライドを交えて紹介しました。

第二部では、混声合唱団「エンゼル」のコーラスと「フラ カレイ ラウレップ」のフラダンスが行われ、美しいコーラスのハーモニーと優雅なフラダンスに会場は大きな拍手に包まれました。



混声合唱団「エンゼル」



フラダンス「フラ カレイ ラウレップ」



活動紹介展示



まだまだ暑さ厳しい日でしたが多くの方々にお越しいただきました。この日ご協力いただいた募金は、バングラデシュの子ども達の教育支援に役立てさせていただきます。



演奏後ロビーにて

世界の子ども達に 笑顔いっぱい 明るい未来を

代表理事東村眞理子とバングラデシュ現地責任者アジズル・バリ対談

東村眞理子代表(以下代表) バングラデシュで活動を始めて今年で38年になりますね。バリさんは立ち上げの時から現地責任者として今日まで頑張ってお下さってありがとうございました。私達が児童養護施設(エンゼルホーム)を始めた時、バリさんが一緒にしようと思ったきっかけは何だったのですか。

現地責任者アジズル・バリ氏(以下バリ氏) 1971年に9か月間続いた独立戦争が終わった時、私は8才でした。外を歩くと駅や道には戦争で親を亡くしたたくさん子ども達が途方に暮れたように座っていました。その姿を見て、彼らを何とかして助けてあげたいとずっと思っていました。1985年に私が大学を卒業する頃、前代表の川村百合子さんと出会い、バングラデシュの大変な状況を見て子ども達を支援していきたいというお話を聞き、一緒に活動しようかと心に決めました。私の幼い時からの夢を実現するための道がそこから始まりました。

代表 子どもを育てるのはとても難しいこと、まして若くて子どもを持ったこともないバリさんが多くの子ども達を育てるのは大変だったと思います。

バリ氏 最初に子ども達を預かった時、彼らには何もなく、毎日一緒に遊んだり勉強しながら彼らが生きて行くうえで何が一番必要か考えました。教養を身につけ、人前に出ても恥ずかしくない振る舞いができるよう教育と躾が必要だと考え根気よく教えました。そして、川村さんが教えて下さった「いつも感謝の気持ちを忘れない」「身のまわりを掃除する」「時間を守る」この3つを子ども達にいつも教えてきました。それらのことが次第に身について彼らの財産となっていったように思います。

代表 この38年間児童養護施設だけでなくいろんなプロジェクトを行って来ましたね。

バリ氏 1989年より、貧しくて学校に通うことが難しい学生に奨学金を渡す活動(DCEF)を始めました。現在毎年2,000人の学生達に奨学金を渡しており、これまでに延べ103,600名の学生を支援してきました。またこれまで70校の学校校舎建設を行いました。そのほか、職業訓練所、女性自立センター、農業訓練センター、クリニック、識字教室など様々なプロジェクトを行ってきました。そして、川村百合子前代表の「バングラデシュに役立つ人材を育てたい」という志を受け継ぐため、2005年にはプライベートスクール(YURIKOエンゼルスクール)を開設しました。



YURIKOエンゼルスクールでは他の学校であり行っていない音楽、絵、スポーツなど文化的な教科も取り入れています。

代表 7月にバングラデシュに行きましたが、活動を始めたころと比べてずいぶん変わりましたね。その発展のスピードに驚いています。昔は女の人を外で見かけることは少なかったですが、最近は女性が社会で活躍している姿をよく見ますね。

バリ氏 政府の政策で女の子も中学・高校まで通うことが出来るようになってきました。またNGO団体の支援などもあり、女性が縫製工場などで働いて収入を得ることができるようになってきました。昔のように成人になる前に親に結婚させられることも少なくなり、だんだん女性の地位が向上しています。

代表 もっとお話を聞きたかったのですが時間も限られているので最後に、この活動を続けてきて感じられたことやエンゼルホームの子ども達の嬉しい報告などお願いします。

バリ氏 エンゼルホームを始めたころ、何の力も持っていなかった子ども達が現在、裁判官や医者、看護師、エンジニアなどになって活躍しています。また、海外に出て仕事をしている子ども達もいます。エンゼルホームを卒業した後、社会に出て結婚し自分の家庭を持ち、親や兄弟を助けている子どもも多くいます。この活動を続けてきてわかったのは、教育の力と愛の力があれば子ども達はぐんぐん成長し、自分の力で人生を切り開いていけるということです。日本の皆様からの長年のご支援のおかげで子ども達はそれぞれの夢を実現するため走り続ける事ができ本当に感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。